

## 「Do you know 能？」第五弾

～ガイドなら一度は観ておきたい能楽～

2018年1月13日実施 JGA 第一支部研修 終了レポート

2018年初めのJGA第一支部研修は、今回で5回目の開催となる「Do you know 能?」。独立行政法人日本芸術文化振興会 国立能楽堂のご協力をいただき、第一部：能楽講義とワークショップ、第二部：能楽普及公演鑑賞という構成で、35名（会員29名、非会員5名、運営委員1名）が参加しました。



ワークショップの講師は前回に続き、観世流シテ方女性能楽師の伶以野（レイヤー）陽子師です。現存する舞台芸術では世界で最古といわれる能楽の歴史や他の伝統芸能への影響などを、敢えてくださった口調でわかりやすく説明され、格式ばった印象の強い能楽がにわかに関心しやすくなりました。

今回も研修用ですが実際の能舞台を利用した研修です。参加者を地謡・囃子・後見に見立てて定位置につかせる舞台構成の説明は、具体的なイメージがわいてわかりやすいものでした。



さらに、本日鑑賞する「土蜘蛛」の台詞の一節の謡い方、立ち姿勢や歩き方を学んだ後、いよいよ全員が能舞台に上がりました。「おまーく」と一声の後、摺り足で舞台へ。舞台では能面をつけて、実際の視野がいかに狭いかも実感。各自、舞台の裏側も見学しました。

その後希望者は館内の食堂「向日葵」にて羽衣弁当をいただきながら歓談、楽しいひとときを過ごしました。

第二部はお待ちかねの能楽鑑賞、最初に武蔵野大学の三浦裕子教授による解説・能楽案内「能・狂言の妖怪たち」。次いで狂言「伯母ケ酒（おばがさけ）」善竹 富太郎（大蔵流）。会場は笑いが溢れました。最後は能「土蜘蛛」廣田 幸稔（金剛流）。土蜘蛛が繰り出す糸の描く線が何ともダイナミック。この糸は細い和紙で、端に鉛玉がついています。興奮のうちに終演、ワークショップから能楽鑑賞まで、非常に充実した内容の研修でした。

